

# 厚生福祉

時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社  
昭和28年5月30日 第3種郵便物認可  
毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)  
購読料金 税抜月額4,100円  
本誌掲載記事・写真などの無断複写・複製・転載を禁じます。  
©時事通信社2015  
◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)  
kousei-dokusha@jiji.com

## 目次

特集 サ高住の現状と課題⑦ 厳格運用求められる兼務態勢—ビジネスとしてのサ高住⑬.....2

中央省庁ニュース.....8

オンライン通報で実証実験 聴覚障害者への対応強化で/施設暮らし、意見割れる 認知症で初の世論調査/レセプト指導、全国4カ所で未実施 厚労省に改善要望/再エネ普及策、見直し着手 太陽光集中、国民負担が課題

進言(群馬県).....9

特集 「日本版CCRC」構想を追う(下).....10

インタビュールーム(秋田県).....13

マイナンバー関連情報.....14

学会・医療情報.....15

私たちの工夫.....16

新刊案内 「紅葉する老年」.....17

ニュースフラッシュ.....18

【福祉・子ども】子育てコンシェルジュを配置/高齢者のボランティアにポイント/全国初、タクシーの新輸送サービス/高齢者交通費助成、タクシー追加【医療・健康】全職員に救命救急講習会/小児医療で「プリキユア」と連携 ほか【環境・ゴミ】村や農業法人出資でメガソーラー ほか【労働・女性】業務改善へモバイルワーク導入/特別支援学校生徒の就労協定締結へ

## 一枚のカードから

筆まめだね、と言われることがあるが、割と思いつくと葉書などを出す。

施設長だった時、疎遠になっていた家族に思い出したように時々お年寄りの様子を書いて葉書を出していたら、いつの間にか家族が訪問してくれるようになったこともあった。これはきつと、電話のような直接的なコミュニケーションではなく、返事を特に要求されないという相手の安心感から、柔らかに、ゆつくりとお互いの関係を構築できたからかも知れない。

もう十数年前になるが、友人の岐阜県ハンガリー友好協会会長に誘われてハンガリーを訪ね、その時出会った日本人の女性にクリスマスカードを

社会福祉法人新生活会  
名誉理事 長・石原美智子



毎年出していたら、今年になって突然、訪ねて来られた。偶然にもその女性が小・中学校の一時期、この土地で過ごしたというご縁であった。

彼女は若い時、フランスと日本を股にかけて活躍していて、まだ当時共産圏だったハンガリーへ嫁ぐという勇気と行動力のある女性だけあって、国際的に大勢の素晴らしい交友関係を持つておられる。

私たちの活動を気に入って下さったようで、友人たちにお喋りをしてきて、三月もしいうちにまた友人ともども訪ねて来てくれた。その時の友人の一人は、国際的に活躍しているマエストロ(音楽界の巨匠)で、普通なら会話を交わすこと

もない世界のんだ。

ゆつくりして頂こうとスタッフなど少数人数での夕食となった。食事も終わりに近くなつた時、彼が、指揮者は単に棒を振っているだけではないのですよと、共に来られたバイオリニストが妙なる曲を奏でる横へ移動する。その時、彼は既にマエストロの姿に変身し全身に血液が漲っている。そしてちよつとこのように演奏してみて下さいとアドヴァイスをすると、同じバイオリンから溢れくる音が全く異なっている。

まるで魔法にかかったような一瞬を体験した出席者は、一流というものがどのようなことを五感で感じ、己が介護の専門性とリンクさせながら心を新たにした夜となった。

たった一枚の便りが人と人を繋いで、思わぬ広がりを見せるものである。